

ひとしずくの森

春の号

発行・編集
山形県源流の森
飯豊町須郷 669 - 3

満員御礼！春の源流の森

一、利用者の増加

令和四年のゴールデンウィーク期間中、源流の森では常設プログラムやオープニングイベントの開催により約一八〇〇人と、昨年度より二割増のご利用をいただきました。また、水没林観光へも取組んだことで入館者数も約三四〇〇人と同様に伸びました。

二、準備万端

昨年は期間中晴天の日が少なく、水没林が一大ブームとなったことで大渋滞が起こるなど、思わ

ぬトラブルに振り回されました。その反省も込めて今年は四月中から飯豊町商工観光課、観光協会、白川荘、いいでカヌークラブとタックを組み交通対策会議を立ち上げました。誘導員の配置など利用者の流れの円滑化を図るとともに、源流の森も協力して駐車スペースの確保や園内のビューポイントの整備・誘導に取り組みました。これにより期間中の渋滞は解消されました。

三、連休に突入

今年の連休は最大十連休と言われていましたが蓋を開けてみるとやはり平日の利用は少なく三日から五日までがピークでした。旗日に利用者が殺到する中、常設プログラムの予約は早々と埋まっていき、三日連続満員御礼でし

た。また、森林案内への誘導なども行いながら多くの方に源流の森の楽しさを知っていただきました。

特に今年は来場者に水没林をより楽しんでいたため、町が発行する

「フォトスポットガイド」に併せて展望台にテーブルセットを置き、玄関に案内表示を掲げるとともに、来場者からの問合せにも対応しました。

四、オープニングイベント

5月8日のオープニングイベントはフルラインナップとなった常設プログラムをはじめ、緑のプレゼントやミニ蒸気機関車、木登りツリーイング、キノコの植菌、森のホームステイなど多彩な体験ブースを設置してご利用を図りました。当日は、風はあるものの心配された雨も降らずお客様の出足も好調。コロナ対策で設けた総合受付を済ませるとお目当てのブースへ足早に移動していました。

ミニ蒸気機関車では大勢の親子が携帯片手に線路に揺られ、木登りツリー

ゴールデンウィーク

(4/29～5/8) 期間中のご利用者

区分	延体験者数
常設プログラム	800
オープニングイベント	1,000
計	1,800



森のホームステイ（オープニングイベント）

所長イッシーのネホダレ

朝まだ明けやらぬ湖畔。風も無く水面は銀色の鏡のよう。一面牛乳のようなモヤが立ち込める中、ダウンコートを着込んで立ちすくむ無数の人影。声も無くシヤッターの音だけが木霊する。まるでホラー映画ですが、春の白川湖周辺では常に見られる風景となりました。朝の四時から二時間だけの水没林は、日中とは別物。マニアがハマるのも無理からぬ幻想の世界です。貴方も一度はぜひ。

平年並みに三メートルの積雪だった源流の森は連休中でもいたる所に残雪が。それでも健気な花たちは、フクジュソウ、カタクリ、キクザキイチゲ、リュウキンカ、ミツガシワと次々に咲いては消えていきます。そして鳥の鳴き声に併せてお客さん達の笑い声が。みんなが森に遊び、森に癒され、森と語らう季節が、またやってきました。職員一同、できるだけの準備とおもてなしの心でお客様に満足していただけるよう努めてまいりますので、関係の皆様のご支援、ご協力を今期もよろしく願います。

（ネホダレは方言で寝言のこと）

所内研修（森林案内）を開催

4/23

森は驚きや発見に満ちています。自然の美しさや奥深さに触れてリフレッシュしたり、多様な生き物の姿を知ってもらうには森林案内が大切です。そこで、源流の森では昨年に引き続き所内研修として森林案内研修を開催しました。「源流の山の主」こと橋本佐内氏を講師に、心構や実際のノウハウを学び参加者同士で意見交換を行いました。また、四県民の森連携事業とし県民の森からも参加をいただきました。

橋本氏からは、案内時の服装や装備、危険生物の周知方法などの説明がありました。また、同じ種類でも個性があることや、自然の移り変わりの早さ、お客さんの求めるものの多様さなど実践から導かれた貴重な提言も。その後三十人の参加者は実際に残雪の残る森に分け入り、解説のノウハウや観察の仕方などを体験しました。

